

令和元年度 博物館施設 総合評価

施設名 自然の博物館

		達成	未達	達成見込
全館共通	数値目標による評価	1	3	0
各館独自	数値目標による評価	4	4	0

		完了A	課題有B	未着手C
全館共通	チェックリストによる評価	90	0	0
各館独自	チェックリストによる評価	26	0	0

自己評価総括

評価	<p>1 数値目標</p> <p>(1) 全館共通項目・・・1「利用者数」及び 2「常設展観覧者数(入館者数)」は目標値を下回った。 3「事業情報の発信」は目標値のほぼ2分の1。 4「経営努力(収入)」は目標値をやや上回り目標を達成した。</p> <p>(2) 館別独自項目・・・1「収集・整理(新規登録数)」は資料評価会議を経て行った。 3「常設展」及び4「特別展・企画展」の満足度は高い水準を維持している。 5「学校教育への支援」、6「社会教育への支援」は目標値を下回った。 7「インターネットの活用」は前年を下回った。</p> <p>2 チェックリストによる評価</p> <p>(1) 全館共通項目・・・すべてが完了A (2) 館別独自項目・・・すべてが完了A</p> <p>※ 特殊要因</p> <p>10月に台風19号が襲来し、2日間臨時休館したが、長瀬岩畳周辺の河川敷が流木や土砂に覆われ景勝地としての景観復旧が長期に渡ったこと。さらに、新型コロナウイルス感染症対策のため、2月29日から休館し企画展や各種講座・スタンプラリーが開催できなくなり、入館者をはじめとする目標値が達成できなくなった。</p>
課題	<ul style="list-style-type: none"> 効果的な広報により新規の来館者を呼び込むとともに、博物館を楽しんでいただくことで次の来館につなげる好循環をもたらす必要がある。
対応の方向	<ul style="list-style-type: none"> 埼玉を中心とする自然資料の収集や調査研究の成果を通じて、常設展示の充実、魅力的な企画展等を開催する。また、入館のきっかけになる広報をさらに充実するとともに来館者に楽しんでいただける工夫を継続していく。

評価結果に対するコメント

各館協議会・委員会
の意見

《全館共通項目》

- ・利用者数等が、台風19号の影響やコロナウィルス感染症防止対策のために目標値を達成できなかったことは致し方ないことである。
しかしながら、利用者が10万人を超えたことや収入額の達成は、良い評価に値する。
- ・展示の満足度が高いことは、常設展の改修、特別展・企画展など博物館の顔になる部分での努力が実を結んだ結果と考えられる。
- ・長瀬の立地環境から、河原で「見た」「触った」などの経験が、博物館内の展示によって一層理解が進む、深まるとなるような展示を希望する。
- ・今回のコロナウィルスの影響から、今後、Webを利用した展示や情報発信をさらに進めてはどうか。
- ・適正な利用規模、密度等がその時の状況に応じてあり、博物館の質を担保するために改善すべき課題をみつけて、少しずつ早めに取り組んでいただくとよい。
- ・インターネットでの情報公開や、情報や資料等の相互交換などの部分の重心を増やして、利用(者)を増やしていくことも課題や目標になるのではないか。
- ・特別展や企画展の内容が入館者の増加には重要となる。どのような議論を経てテーマ・内容の決定に至ったのか知りたい。
- ・情報発信が一番考えるべき課題であり、諸々の事情を考えながら色々な方法を使うべき。

《館別独自項目》

- ・資料の収集整理に関して、数値目標を新規登録数としているが、資料は1個1個の価値に大きく違いがあり、新種の記載に用いられたホロタイプは最も価値が高く、パラタイプやトポタイプでも相当な価値がある。評価を高めるための工夫として貴重度についても何らかの表現が必要と思う。
- ・情報発信のツイート数については、ツイートしたくなるような面白い話題を根気よく提供する努力が必要ではないか。